

2010年10月

住友化学、PMMAの生産能力拡大に着手

住友化学は、このほど、シンガポールにおいて PMMA（メタクリル樹脂）の生産能力を拡大する計画に着手いたしました。新たに建設するプラント（第三プラント）の年産能力は 50 千トンで、商業運転の開始は 2012 年第 3 四半期を予定しています。

本増設により、シンガポールにおける生産能力は、第一プラントおよび第二プラントと今回の増設分を合わせて年産 150 千トンとなります。日本、韓国を加えた住友化学グループのアジア 3 拠点全体では年産 318 千トンとなり、PMMA としては世界最大規模の生産能力を保有することになります。

本年に入り PMMA は、LED バックライト搭載タイプの液晶テレビの部材である導光板用途の需要が急増しています。これは、液晶テレビの薄型化および省電力化の流れの中で、液晶テレビの光源が、従来の冷陰極管から LED へと急速にシフトしており、それに伴い、画面全体を照らすための部材として PMMA を使用する導光板が採用されていることによるものです。こうした状況により PMMA の需要は、本用途において今後年率 8%程度の高い伸びが見込まれています。さらに、自動車、家電、雑貨といった従来の用途でも需要の伸びが見込まれ、PMMA は、こうした旺盛な需要の伸びにより需給は逼迫した状態が継続するものと予想され、今回、新プラントの建設により需要の増加に対応することとしたものです。

当社は、MMA（メチルメタクリレート）事業を基礎化学部門の戦略事業と位置づけ、PMMA の原料である MMA モノマーを効率的に生産する直酸法製造技術や高性能触媒と、導光板など光学用途グレードの PMMA を生産するのに最適な連続バルク重合プロセスといった国際競争力のある独自の製造技術を武器に、アジア市場を中心に積極的に事業拡大を図って参りました。

住友化学は PMMA の世界最大規模のメーカーとして、今後とも伸長著しい需要に積極的に対応し、MMA 事業の一層の強化・拡大に注力してまいります。

以 上